

奈良と松阪 を結ぶルート166MAP

松阪市

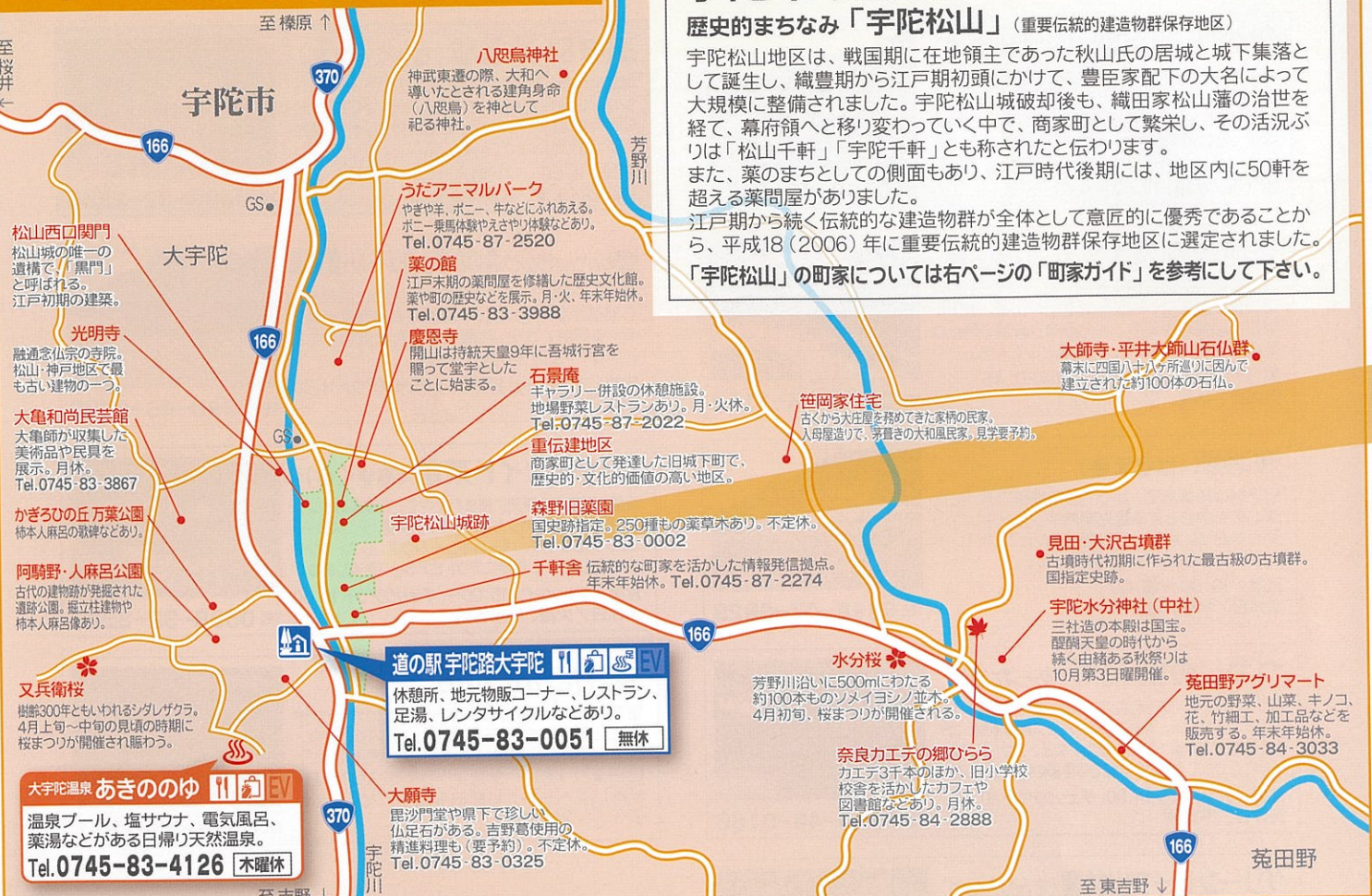
香肌峡県立自然公園 櫛田川・恵美須河原(松阪市飯南町)

(香肌峡)



高見山の樹氷

「宇陀松山」詳細マップ



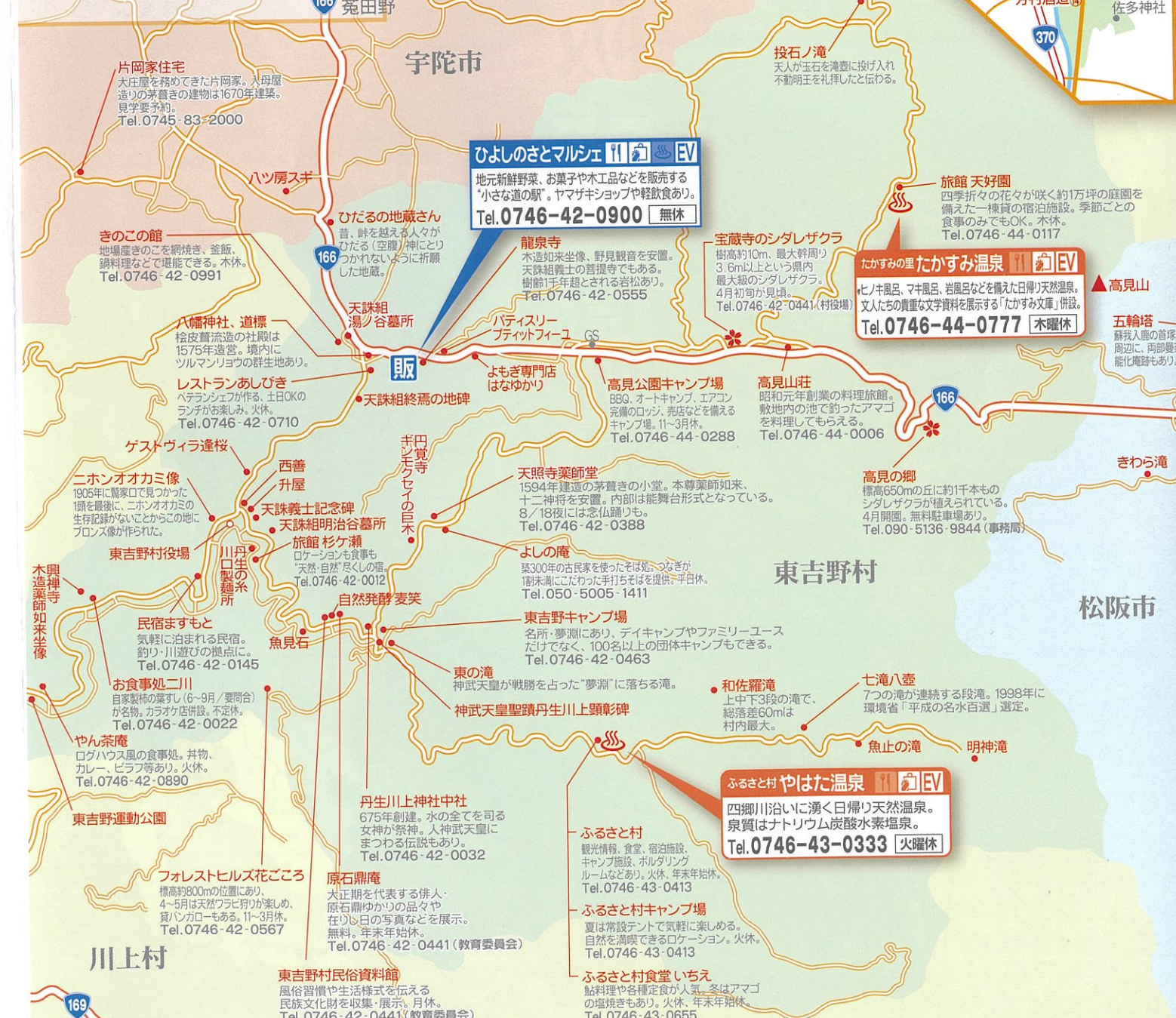
宇陀市 松山地区

歴史的まちなみ「宇陀松山」 (重要伝統的建造物群保存地区)
 宇陀松山地区は、戦国期に在地領主であった秋山氏の居城と城下集落として誕生し、織豊期から江戸期初頭にかけて、豊臣家配下の大名によって大規模に整備されました。宇陀松山城破却後も、織田家松山藩の治世を経て、幕府領へと移り変わっていく中で、商家町として繁栄し、その活況ぶりは「松山千軒」「宇陀千軒」とも称されたと伝わります。また、菓のまちとしての側面もあり、江戸時代後期には、地区内に50軒を超える菓問屋がありました。
 江戸期から続く伝統的な建造物群が全体として意匠的に優秀であることから、平成18(2006)年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。「宇陀松山」の町家については右ページの「町家ガイド」を参考して下さい。

「宇陀松山」町家ガイド (重要伝統的建造物群保存地区)

- ① 植田家住宅 江戸時代末期の建築とされる中規模で典型的な町家。かつての表構えは全ての間口がスリアゲ戸であった。
- ② 旧福田医院 大正14年頃、建立された洋館。診療室は大壁づくりで、天井は折上げ天井。敷地には、蔵や離れなどもある。
- ③ 森田家住宅 江戸時代後期の建築と考えられる。片側入母屋・つし二階・棧瓦葺・平入の伝統的町家。
- ④ 竹田家住宅 江戸時代末期の建築と伝わる。白漆喰が厚く塗り込まれた二階には、意匠の異なる虫籠窓が3種類ある。
- ⑤ 川尾家住宅 外観構造などから江戸時代末期のものと考えられる。この地区においては他に無い変形の虫籠窓を持つ。
- ⑥ 好岡家住宅 明治20年建立の大型の町家。玄関左には、大和地方の古い町家の特徴である台格子がある。
- ⑦ 「葉の館」 (旧細川家住宅) 江戸時代末期の建築とされる。唐破風付きの「天寿丸」の看板は松山地区のシンボル。「葉の館」として公開。
- ⑧ 山邊家住宅 江戸時代中期の建築で、地区の中でも最も古い町家。格子、スリアゲ戸の痕跡、5つの虫籠窓などがある。
- ⑨ 都司家住宅 明治元年頃の建築と伝わる。表に座敷玄関があり、慶應寺の普山式の時にはここから僧侶が出入りした。
- ⑩ 黒川本家 江戸時代後期の建物と推測。南の1/3を貸家とした子持ち長屋であったとされる。谷崎潤一郎も愛した店。
- ⑪ 林家住宅 文政11年(江戸後期)の棟札が残る大型の町家。当初2列6室の町家に、3列目と新座敷を増築したらしい。主屋は大正時代末期に建築と伝わる。大宇陀では珍しい妻入で、表側には入母屋の屋根形式の町家。
- ⑫ 森岡家住宅 主屋は明治42年に建て替えられたもの。創業元禄15(1702)年の造り酒屋。白漆喰の外観が美しい。
- ⑬ 久保酒造 昭和16年建立と新しいが、格子・卯建・黒漆喰・前栽など伝統的要素を持った町家。造り酒屋の店舗兼住宅。
- ⑭ 芳村酒造

「宇陀松山」詳細マップへ



宇陀・東吉野・香肌峡 温泉巡りスタンプラリー

あきののゆ (宇陀市)	たかすみ温泉 (東吉野村)	スメール・黄金湯 (松阪市)
みはる温泉 (宇陀市)	やはた温泉 (東吉野村)	いいたかの湯 (松阪市)

アンケートにご協力下さい

- このマップをどこで手にしましたか。施設名 ()
- マップを見て「行きたい」と思った施設はどこですか。施設名 ()
- 実際に行ってみて「良い」と思った施設どこですか。施設名 ()

フリガナ	年齢	性別
〒	TEL	男・女
都道府県		

宇陀・東吉野・香肌峡 温泉巡りスタンプラリー

応募方法

左の応募用紙に記載されている6つの温泉施設を利用して所定のスタンプを押印して下さい。
すべての温泉施設を利用してスタンプを集めると応募できます。
 (すべてのワケ内に所定のスタンプの押印なき場合は無効となりますのでご注意下さい)
 ※応募は、お1人様につき1応募とさせていただきます。

賞品

地域の特産品や入湯招待券などの施設利用券が抽選で**50名様**に当たります。

応募締切

2020年5月31日(日) 消印有効

当選発表

賞品の発送をもって当選発表とさせていただきます。

お問合せ

松阪市飯高地域振興局
 TEL: 0598-46-7111 (地域振興課)

※ご記入いただいた個人情報は、スタンプラリーに関する抽選・発送等の目的以外には使用しません。

東吉野 句碑・歌碑巡り

原石鼎 (はらせきてい) 1886.3~1951.12
 島根県の医師の家に生まれるも文学を志し、各地を放浪。1912年春に鷲家(わしか)で医業に従ずる兄を頼って東吉野へ。深い自然やそこに暮らす山村の民のたくましく生きる姿に感動し、創作活動に没頭しました。東吉野で暮らしたのは1913年秋までの短い期間でしたが、人にふれ、四季にふれて生まれた17文字は色あせず、今もみずみずしく心にしみ込みます。



東吉野村

日本の歴史のまち「東吉野」
 東吉野村には、南北朝時代の豪族・小川氏や、明治維新のさきがけとなった天誅組(てんちゅうぐみ)に関する歴史が残っています。また、深吉野を愛してやまなかった俳人・原石鼎(はらせきてい)ゆかりの地でもあり、村では俳句の里づくりを行い、多くの句碑が建立されるなど、奥深い文化が感じられます。
 歴史上で東吉野の地が登場するのは日本書紀にまでさかのぼり、神武天皇が大和平定のため丹生川上で戦勝祈願を行ったということが記されています。その丹生川上の地が東吉野村大字小(おむら)の丹生川上神社付近で、古代の聖地として神武天皇聖蹟(せいせき)の碑が建立されています。また、続日本紀などによると、丹生川上神社には古来、祈雨・止雨祈願のため、朝廷が奉幣(ほうへい)を行っていたことがわかります。そして、室町時代には、丹生川上神社の神主であった小川弘光が神霊(しんじ)奪還事件で活躍し、幕末には天誅組終焉の舞台となりました。このように東吉野村には日本の歴史に関わった出来事が多くあり、今も歴史の薫りを漂わせています。

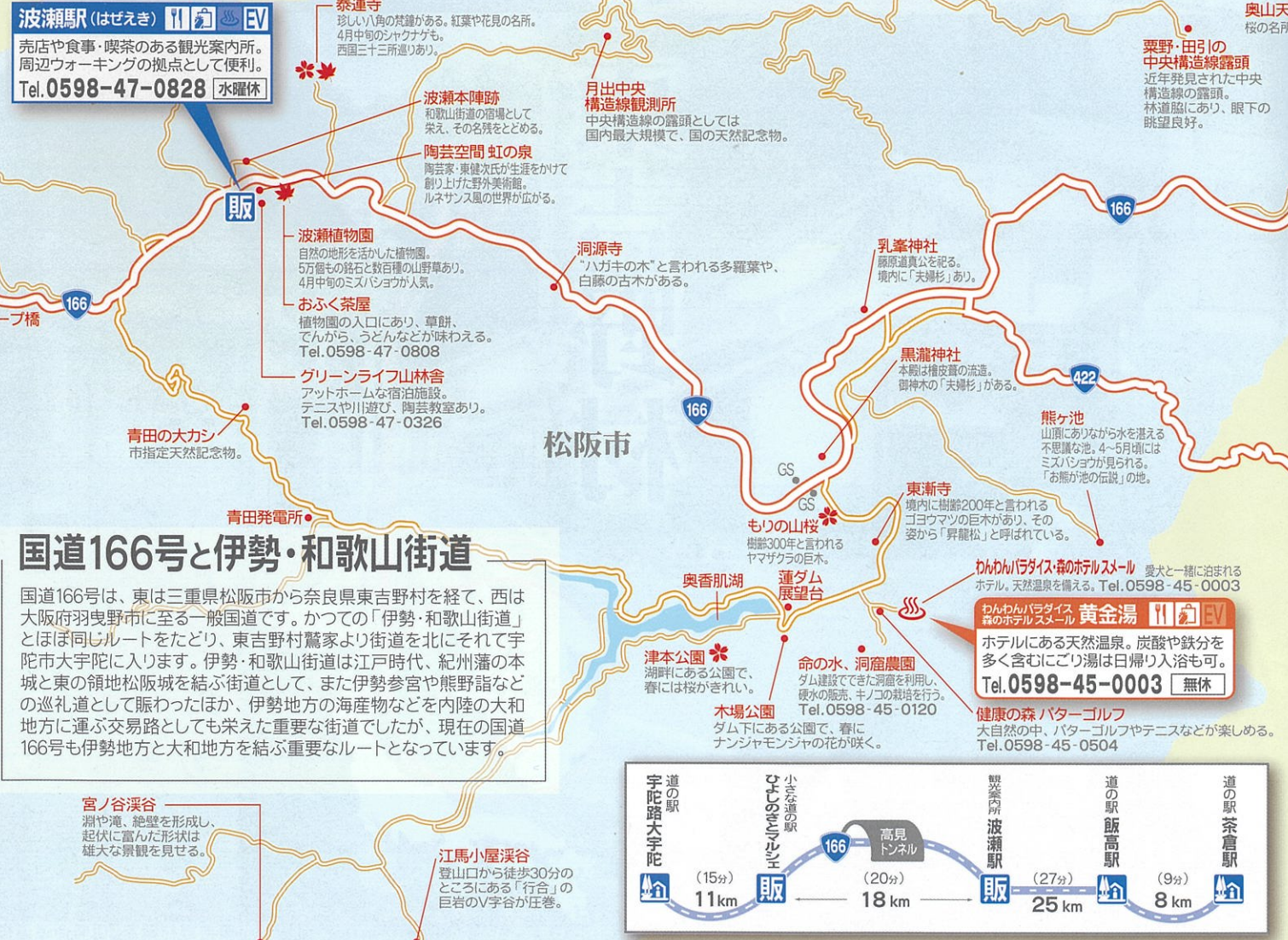
天誅組(てんちゅうぐみ)
 幕末の文久3(1863)年、尊王攘夷を掲げて、中山忠光、吉村寅太郎、藤本鉄石ら39名からなる「天誅組」が決起しました。彼らは、京都から大和に入り、幕府天領の五條で代官所を襲撃。しかし、その翌日、京都で政変が起こり、天誅組は幕府から追われる立場になりました。五條から十津川、大峰山系を東へ北へと逃れ、たどり着いたのは東吉野村。包囲する追討軍に決死隊が斬り込み、中山、吉村ら本体の脱出を期すも、次々と追討軍の銃弾に倒れました。志士たちの遺体は、村人によって埋葬されたといわれます。その後、明治20(1887)年、天誅組の生き残りである当時大審院判事の北島治房の尽力もあって、奈良県が誕生。明治22(1889)年には、後に合併して東吉野村となる小川村・高見村・四郷(しごう)村が発足しました。
 一方、明治政府は尊王の志士に対して、贈位と靖国神社への合祀を実施。東吉野村でも天誅組志士の慰霊碑建立や顕彰活動が展開されました。ここには、時代の夜明けを望んだ夢とともに、若き志士たちが静かに眠っているのです。

松阪市 飯高町・飯南町

自然が香るまち「香肌峡」
 香肌峡県立自然公園 香肌峡は、この地域が昔からお茶やシタケ、鮎など、香り高い産物に恵まれていたことから名付けられたと伝わります。榎田川とその支流に沿って広がる新緑や紅葉の美しさ、ツツジやヤマユリ、二ホンカモシカなど豊かな自然にあふれています。
 古くは、奈良と伊勢とを結ぶ参宮や巡礼の道として栄え、現在は大阪、奈良と松阪、伊勢とを結ぶ観光道として多くの車が行き交うほか、全国屈指の神秘的な景観を有する山々や渓谷の秘境巡り、登山やハイキング、サイクリング、カヌーなどのアウトドアリゾートとしても注目されています。



波瀬駅(はせえき)
 売店や食事・喫茶のある観光案内所。周辺ウォーキングの拠点として便利。
 Tel.0598-47-0828 水曜休



国道166号と伊勢・和歌山街道

国道166号は、東は三重県松阪市から奈良県東吉野村を経て、西は大坂府羽曳野市に至る一般国道です。かつての「伊勢・和歌山街道」とほぼ同じルートをたどり、東吉野村鷲家より街道を北にそって宇陀市大宇陀に入ります。伊勢・和歌山街道は江戸時代、紀州藩の本城と東の領地松阪城を結ぶ街道として、また伊勢参宮や熊野詣などの巡礼道として賑わったほか、伊勢地方の海産物などを内陸の大和地方に運ぶ交通路としても栄えた重要な街道でしたが、現在の国道166号も伊勢地方と大和地方を結ぶ重要なルートとなっています。

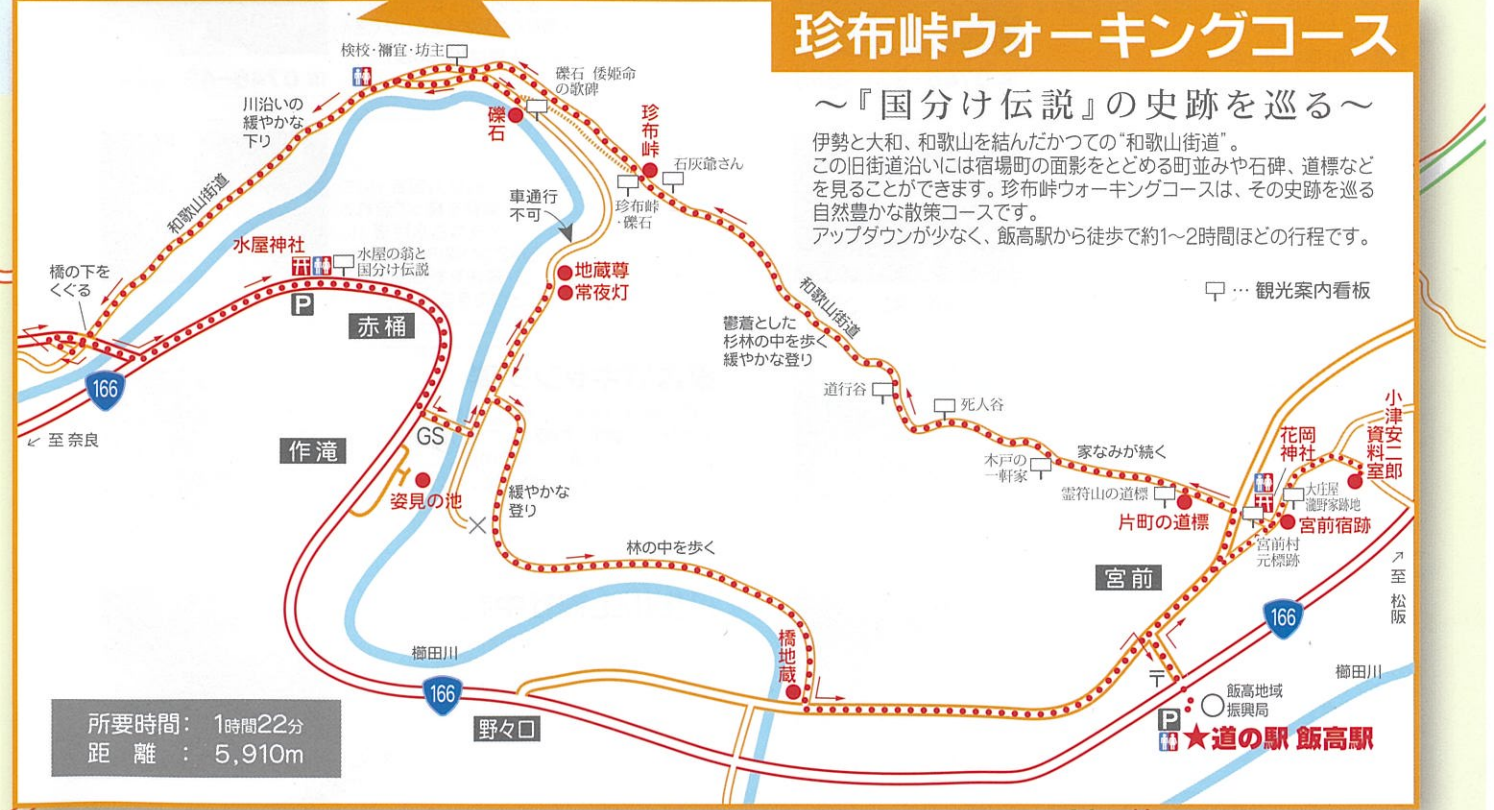
宮ノ谷溪谷
 滑や滝、絶壁を形成し、起伏に富んだ形状は雄大な景観を見せる。

江馬小屋溪谷
 登山口から徒歩30分のところにある「行合」の巨岩のV字谷が特徴。



珍布峠ウォーキングコース

～『国分け伝説』の史跡を巡る～
 伊勢と大和、和歌山を結んだかつての「和歌山街道」。この旧街道沿いには宿場町の面影をとどめる町並みや石碑、道標などを見ることができます。珍布峠ウォーキングコースは、その史跡を巡る自然豊かな散策コースです。アップダウンが少なく、飯高駅から徒歩で約1~2時間ほどの行程です。



所要時間：1時間22分
 距離：5,910m

奈良と松阪 を結ぶ **ルート166** *MAP*



宇陀市

宇陀市大宇陀の町並み



東吉野村



東吉野村鷺家・伊勢街道道標